



教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280
ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課マスコットキャラクター
しえん君



教育支援課 研修・研究グループ



タブレット活用指導力向上出前講座について

「目的に応じてタブレットを適切かつ効果的に活用する」「教師自らがアイデアや工夫を生かし、授業実践に取り組む」を目標とした出前講座を市内全小学校で実施しました。本年度9月に導入された40台のタブレットを用いた授業例として、発表ノート・カメラ・ペン機能を活用した道徳科「サインをください」と、教材配付・画面一覧（比較）を活用した算数科「ぜんぶでいくつですか」を紹介しました。

今や、社会のあらゆる場所で ICT 活用が日常のものとなり、Society5.0 時代を生き抜いていく子どもたちにとって、タブレットは鉛筆やノートに並ぶマストアイテムです。現在、「すぐにも、どの教科でも、誰でも活かせる一人一台タブレット」の実現に向けて、国家プロジェクト（GIGA スクール構想）が動き出しています。子どもたちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残されることのないように、今後も効果的な出前研修や情報提供を行っていきます。



教育支援課 特別支援教育・相談グループ



「医療的ケア」と合理的配慮

「医療的ケア」とは、日常的に行われている導尿・気管切開部の衛生管理・たんの吸引・酸素管理等の医行為のことです。医療的ケアが必要な子どもは年々増加しており、中には、歩いたり活発に動き回ったりすることが可能な子どももいます。このような子どもが、地域の学校において教育を受ける機会を確保するため、四日市市では平成26年度から学校に医ケアサポーター（看護師）を配置しています。

学校における医療的ケアの実施は、子どもに対する教育面・安全面で大きな意義をもちます。医ケアサポーターの配置により、対象児が小学校で安全に安心して、他の子どもたちとともに、活発に学んだり遊んだりしながら、日々、成長していくことができます。学校における医療的ケアは、合理的配慮の一つと言えます。

医療的ケア実施校が増えてきた今年度、実施校4校による連絡会を初めて開催しました。ある学校の校長先生から、「対象児が安全に校内を移動できるよう、全校児童に呼びかけて、右側通行を意識させている」という報告がありました。毎日子どもに寄り添っている医ケアサポーターの気づきを校内の取り組みにつなげた、合理的配慮の一つであるということでした。

研究報告

令和元年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校・園での実践に広く活用されることを願います。

第410集

研修・研究グループ 研修員 中塩 英昭

教科の学びをより確実なものにするためのプログラミング教育に関する研究 － 小学校算数科における Scratch の活用を通して －

第3学年算数科の乗法の筆算の学習において、ビジュアルプログラミング言語である Scratch を用いてプログラミング的思考を意識した授業を構成することが、筆算の仕方について算数用語を適切に用いて説明する論理的思考力及び計算の技能をより高めることに有効なのかを検証しました。

授業では、まず Scratch の筆算モデル（完成見本）の動作を見せて、そのモデルを再現するためにはどのような命令、手順が必要かを分析し、それをもとに実際にプログラムを完成させる学習を行いました。子どもたちは用意されている命令ブロック群を並べ替えたり、正しいものを選択したりしながら筆算の手順を学び、つまずきやすい繰り上がりの処理についても学びました。また、完成したプログラムを使った個別学習も取り入れました。

授業効果の比較をするために Scratch を用いず従来の授業展開を行った学校とともに事前・事後・遅延（事後より1か月後に実施）テストを実施しました。その結果、Scratch を活用した授業を行った学校の方が、記述問題で適切に説明できる児童の割合及びその増加率が高く、計算問題の平均正答数も事後・遅延テストともに高いという結果が出ました。これらの結果から、論理的思考力を高めるうえで Scratch を活用することは有効であり、計算の手順を追いながら答えを確認する学習を繰り返し行うことで、計算の技能についてもより深く理解させることができると考えます。



執筆者からの一言

プログラミング的思考とは、『こうしたい』という結果を実現するために、『何を、どのような順番で組み合わせればいいのか』を考える力と言えます。子どもに身につけさせたい力は何か、その力をつけさせるためにはどのような授業をすればよいか、それをこれからも模索していきたいと思えます。

Let's think together!



第411集

研修・研究グループ 長期研修員 坂口 早苗

算数科における児童の学習意欲を高める振り返りのあり方 － 文章記述による振り返りの効果 －

算数科の授業終末5分間での文章記述による振り返り活動が、算数科での児童の学習意欲を高めることに効果があるかを、第6学年『拡大図と縮図』の単元で検証しました。

振り返り場面において、「文章記述クラス」と「確認テストクラス」を設定し、単元前後で算数に関する意識調査を行い、その結果を比較・分析しました。「文章記述クラス」では、「学習内容」と「解決過程」の2点を書くように取り組ませたところ、教科書やノート、板書をもう一度見直す姿が見られ、学んだ用語を使ったり、作図方法を手順通りに書いたりするなど、授業を具体的に再現するような振り返り活動になりました。

検証の結果、文章記述クラスは、算数意欲・好感度に関する項目の評定平均値が上昇し、確認テストクラスの評定平均値を上回りました。意識調査の項目別で見ると、「算数の問題を考えるのは面白い」と「算数の問題をどんどん先までやりたい」の項目で肯定的回答をした児童数が増加しました。これは、文章記述による振り返りに解決過程を具体的に書いたことで、「習ったことを使えば解ける」という算数の面白さを児童が実感したり、その内容が肯定的な自己評価となったことで「次もできる」という自己効力感が高まったりしたためと考えられます。このように、文章記述による振り返り活動は、子どもたちの学習意欲の向上に効果があることが示されました。



執筆者からの一言

効果的な振り返り活動には、目的と内容を授業のねらいに合うように計画しておくことが大切です。一過性でない、次の学習へと持続する学習意欲を高めることのできる、文章記述での振り返り活動は、「主体的な学び」を実現するための授業改善の視点の一つになるのではないのでしょうか。



各研究の詳しい内容は、教育支援課までお問い合わせください。また、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページで、閲覧・ダウンロードをして頂けます。(下記をご参照ください)



第412集

四日市市登校サポートセンター

指導員 前田 怜子 北保 絵美 鳥居 かおり 上原 啓江

別室登校生徒支援の方向性を共有する校内体制についての研究

—「自己目標設定シート」を活用して—

別室登校生徒の現状や課題を把握するために「自己目標設定シート」を使用し、支援の手だてを考えるとともに、それを教職員間で共有することで、教職員がより見通しをもって生徒の支援にあたる校内体制づくりにつながるかを検証しました。別室登校による生徒支援を行っている市内中学校（4校）で「自己目標設定シート」を使用し、うち2校では「自己目標設定シート」をもとにカンファレンス（ここでは、生徒支援を目的とする会議）を実施しました。

実践の前後で教職員の意識の変化を比較した結果、「支援の見通し」については、4校ともより見通しをもてるようになりました。「自己目標設定シート」の使用やカンファレンスの実施は、教職員が別室登校生徒の現状や課題を把握し、生徒に合った支援の手だてを考え、それを共有することに有効であり、教職員がより見通しをもって支援にあたる校内体制づくりにつながる一助になったと考えます。別室での支援の「計画性」については、カンファレンスを行った2校の教職員の意識がより高まりました。カンファレンスは別室登校生徒についての情報を共有し、支援方法、役割分担を明確に決める機会となり、別室での支援の計画性をより具体的にもつことにつながったと考えます。

別室登校生徒の現状、課題、目標を1枚のシート上で見ることが出来る「自己目標設定シート」は、支援の方向性を共有するために有効であると考えます。目標が生徒の現状に合っているかを定期的に見直したり、カンファレンス等で複数の視点から考えたりすることで、目標達成率が上がり、生徒や支援者にとっての励みになっていくのではないかと考えます。



執筆者からの一言

「自己目標設定シート」上には目標設定をした生徒と先生の思いが残されていて、生徒の「今がんばりたいこと」が見えます。これを供覧しておくことで、別室の内外を問わず、それぞれの教職員がその別室登校生徒と関わる際の声かけや働きかけの方向性が、揃っていくと考えられます。



「研究報告」を活用しよう！

上述の「研究報告」の詳細は、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページ（「文書等ダウンロード」のページ）で、ご覧頂けます。また、今夏の教職員研修講座で研究報告を行います。ご参照頂き、日々の実践にご活用願います！

研究年次	研究の届出番号	研究の名称
令和元年度	第410集.pdf	別室登校での学びをより確実なものにするためのプログラミング教育に関する研究
	第411集.pdf	算教科における児童の学習意欲を高める振り返りのあり方
	第412集.pdf	別室登校生徒支援の方向性を共有する校内体制についての研究
	第413集.pdf	令和元年度別室登校支援員 第410集～第412集 指導
平成30年度	第407集.pdf	中学校における不登校の発生防止に関する一歩
	第408集.pdf	中学校登校時に必要な問題解決能力向上のための授業づくりに関する研究
	第409集.pdf	自ら考え、議論する道徳の授業に関する研究



令和2年度夏季教職員研修講座に注目！研究報告を行います！

日時・場所	研修講座内容
令和2年7月28日(火) 13:30~16:30 (総合会館8階 視聴覚室)	授業改善研修にて 講演「(仮)深い学び」 國學院大學 教授 田村 学 研究発表 「算教科おける児童の学習意欲を高める振り返りのあり方」 教諭 坂口 早苗
令和2年7月29日(水) 9:30~12:00 (総合会館7階 第1研修室)	不登校対策研修会（担当者研修会）にて 研究発表「別室登校生徒支援の方向性を共有する 校内体制についての研究」 登校サポートセンター 指導員 前田 怜子
令和2年8月5日(水) 13:30~16:30 (総合会館8階 視聴覚室)	授業改善研修にて 講演「(仮)教育の情報化とICTを活用した実践について」 東京学芸大学 准教授 高橋 純 研究発表 「教科等での学びをより確実なものにするための プログラミング教育に関する研究」 教諭 中塩 英昭